

5 章 つつみがおか 堤丘校区



5章 堤丘校区

1.堤八幡宮

【所在地】城南区堤1丁目20-11

①堤八幡宮

【概要】祭神は応神天皇（^{おうじんてんのう} 菅田別命）、玉依姫命（^{たまよりひめのみこと}）。社伝によると、鎌倉幕府第三代執権北条泰時の在任期間（1224～1242）に当地へ赴任した地頭職の岡部氏（現在の山梨出身）が鎌倉鶴岡八幡宮へ勧請した八幡宮であると伝承されている。当時の八幡宮の鎮座地は、現在の一本松川、汐井橋の左岸たもとであったが、享保二年（1717）の洪水により流失したため現在地に移され、天保八年（1839）に再建された。享保の飢饉（1732）の際に寄進された狛犬がある。また、堤八幡宮については、筑前国続風土記、筑前国続風土記付録、筑前国続風土記拾遺、福岡県地理全誌、早良郡誌に記述がある。

例祭は、旧暦9月19日。ただし、近年は10月19日前後の日曜日に行われている。この例祭の前に注連縄かざりを行う。例祭は氏子によって行われ、拝殿で礼拝の後、直会が持たれている。祭祀を行う神職は菊池神社より呼んでいる。戦前までは堤本村の男の子たちの「子供籠り」「提灯ともし」、若者と子どもの「薦々」が八幡宮を中心に行われていたが、戦後途絶えた。なお、氏子は大字堤字宮の前（本村）の住民をはじめ、他の地へ移住した住民を含む。

（※以上、内田義弘氏の調査による）

【境内祠堂等】②猿田彦命、③社日、④猿田彦塞神、他鳥居等多数の石造物あり。



堤八幡宮社殿

②猿田彦命

【概要】堤八幡宮の参道階段下、堤1丁目集会所の前付近にある。『福岡市の庚申塔』によると、年代は明治五年（1872）。材質は花崗岩、法量98.0×68.0（福岡市教育委員会編1993：109）。

【銘文】

〔表〕猿田彦命、〔表右〕明治五年、〔表左〕二月

【参考文献】福岡市教育委員会編1993『福岡市の庚申塔』福岡市教育委員会（p.49、p.109、該当NO.198 城・7）



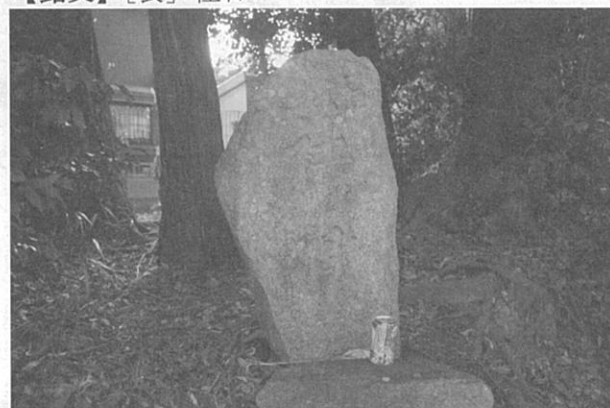
堤八幡宮参道下の猿田彦命、右建物が集会所、左後方に堤八幡宮の参道階段（2013.2.21撮影）

③社日

【概要】堤八幡宮の境内にあり、「お社日さま」と呼ばれている。伝承によると、室町時代の元弘三年（1333）、菊池武時に加担した堤の住民が菊池軍の敗北により処刑された地（現、城南区樋井川4丁目）に地藏と社日が祀られていたが、戦後の急速な開発により地藏は行方不明となり、社日神は堤八幡宮境内へ移された、という。大字堤字宮の前（堤本村）の住民によって祀られ、春と秋にお祭りが行われている。

（※以上、内田義弘氏の調査による）

【銘文】〔表〕社日



社日。写真向かって右側に④猿田彦塞神がある（2013.2.21撮影）

④猿田彦塞神

【概要】堤八幡宮の境内にある。参道下にある②猿田彦命とは別のもの。『福岡市の庚申塔』によると、年代は慶応元年（1865）。材質は花崗岩、法量83.5×50.5。

【銘文】

〔表〕猿田彦塞神

〔裏面〕慶応元年乙丑／閏五月吉日

【参考文献】福岡市教育委員会編 1993『福岡市の庚申塔』福岡市教育委員会（p.49、p.109、該当NO.199 城・8）



猿田彦塞神。写真向かって左側に③社日がある
(2013.2.21撮影)

2.大日堂

【所在地】城南区堤1丁目33-36

【概要】堤八幡宮の近くにあり、「お大日様」と呼ばれている。大日如来尊を祀る。伝承によると、室町時代初期（建武中興）、菊池武時に加担した堤の住民が菊池軍の敗北により処刑された地（現、城南区樋井川4丁目）に本堂が創建され、その後、室町時代に時期不明であるが現在地へ移されたという。大日堂について、「観音があり昔慈福庵という禅寺の本尊なりしという。その寺跡は今も八幡宮の北方にあり、園となる。字を慈福と呼べり」〔筑前国続風土記付録〕という。

戦前までは堤本村（上城戸）の住民の配慮によって年一回堤本村の女の子ども達の「お籠り」がこのお堂で行われていた。戦後この行事は途絶えた。なお、現在は大字堤字宮の前（堤本村上城戸）の住民によって祀られている。

（※以上、内田義弘氏の調査による）

【境内祠堂等】大日堂の外に数個ほど石が安置されている



大日堂。写真左に石が数個置かれている
(2013.2.21撮影)

3.堤八幡宮跡地

【所在地】城南区堤1丁目12付近

【概要】一本松川にかかる汐井橋のたもとにある。堤八幡宮がもともとあったとされる場所で、現在は注連縄が張られている。社伝によると、1717（享保二）年の洪水により流失したため現在地に移されたという。

（※以上、内田義弘氏の調査による）



堤八幡宮跡地。写真左方には一本松川が流れる
(2012年10月撮影)

4.子どもと鳩の像

【所在地】堤団地西側入口「ふれあい橋」西側

【概要】サニー堤店（城南区堤団地28-1）の裏付近、堤団地西側入口ふれあい橋の西側にある。像は堤団地の方を向いている。



子どもと鳩の像。写真奥がサニー堤店（2012年10月撮影）

5.樋井川一丁目集会所の石造物

【所在地】城南区樋井川1丁目1-14（樋井川一丁目集会所）

【概要】樋井川一丁目集会所内に①庚申尊、および②観音橋親柱がある。

①庚申尊

【概要】以前は、現在安置されている樋井川 1 丁目集会所から南東方向へ数 10 メートルのところにあったという。『福岡市の庚申塔』には、記載がない。福岡市教育委員会)

【銘文】

〔表〕 庚申尊

〔裏〕 昭和四年四月 □□□中



庚申尊。写真に向かって右側に②観音橋親柱がある (2013.2.21 撮影)

②観音橋親柱

【概要】観音橋は樋井川一丁目集会所から南西方向に 150 メートルほどの場所にある橋。一本松川にかかるこの橋が架け変わる以前の親柱と推察される。

【銘文】〔表〕 観音橋



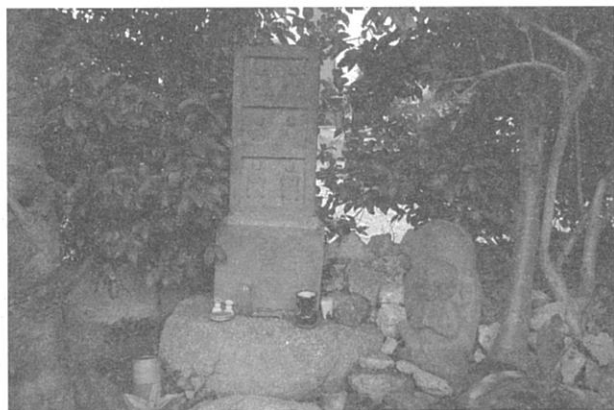
観音橋親柱。写真に向かって左側に①庚申尊がある (2013.2.21 撮影)

6.六地藏

【所在地】城南区樋井川 1 丁目 2

【概要】樋井川一丁目集会所から水道みち沿いに北東方面に 100 メートルほど行ったT字路付近にある。六地藏が横に 2 列ずつ、3 段にわたって彫られている。六地藏の脇には石仏が 1 体置かれている。

【銘文】〔台座、表〕 昭和四年十月 六地藏菩薩



六地藏。向かって右側に石仏 (2013.2.21 撮影)

7.三界萬霊塔

【所在地】城南区樋井川 2 丁目 17-3 (個人宅敷地内)

【概要】中央に仏像が三体線刻されている。隣に陶器製の祠と一緒に祀られている。所有者の話によると、「宅地として畑の一部を購入する際、その畑の中の道端にあった。家を建築する際に粗末に出来ないで、敷地の中から道端に正面を向けて移築した」という (2013 年 3 月聞き書き)。

【銘文】

〔表右〕 三界萬霊

〔表左〕 文化十二年乙亥十二月四日

(※山崎博教氏、紫垣義憲氏の調査による)



左が三界萬霊塔、中央部分に仏像が 3 体線刻されている (2013 年 3 月撮影)